+++四日市人権・同和教育研究会総会の記念講演を聞いて+++

５月 17 日演題 『部落問題を通して考える日常の中の差別』講師(上川多実さん)の講演で部落問題を分かり易く説明されていたので、その内容を紹介したいと思います。

上川多実さん・・・部落問題に関心を持ち、自身の体験をもとに、部落差別問題について積極的に発信、活動中
著書「〈寝た子〉なんているの？見えづらい部落差別と私の日常」
神前人権プラザ 1F コミュニティ室にて貸出しもしています。

１、部落問題ってなに？

被差別部落とは・・江戸時代以前の身分制度のもと、穢れているなどとされ、社会の中で重要な役割を担いながらも身分制度の下、外側に置かれてきた賤民身分の人々が暮らしてきた集落。略して「部落」と呼ばれることも多い。被差別部落に住む人たちやそこにルーツ持つ人たち、またそうみなされた人たちに対する差別を「部落差別」といい、この問題を「部落問題」という。

２、なぜ差別するのか・・？　問われるべきは「差別する側」

- 近世の身分制度に由来する言説
- 近代化による貧困化にまつわる言説
- 部落差別への抗議活動をする被差別犠牲者への非難
- ねたみ、新しいレイシズム(＊)　・リスク回避

＊新しいレイシズム（現代的レイシズム）とは・・・①黒人に対する偏見や差別は既に存在しておらず②黒人と白人の間の格差は黒人が努力しないことによるものであり③黒人は差別に抗議し過剰な要求を行い④本来得るべき以上の特権を得ているという ４ つの信念にもとづいて行われる差別のこと。(高史明著／レイシズムを解剖する／勁草書房より)。明らかな差別発言は少ないものの、特定の民族・グループに対する偏見や差別的制度が社会に組み込まれている状態を指すこともあります。

３、無関心・無知・無理解と差別　～嫌というほど聞かされる「素朴な疑問」～

その①「知らない人が多いならそのまま放っておけばそのうち差別はなくなる」
　このような寝た子を起こすな論は・・・
　⇒具体的に考えていくと不可能
　⇒いま差別を受けている人に「我慢しろ」といっているのと同じ。

その②「知らなければ差別しようがないのだから、教えなくてよくない？」
　⇒知らないからこそできる、してしまう差別がある。

そのほか・・・

- マジョリティの特権、マイクロアグレッションとは
- 差別は個人の問題ではなく社会構造の問題
- 「する/しない」ではなく社会の中に「ある」
　～～差別がある社会でどう生きるか～～差別がある社会をどう変えていくのか
- 人権はどこかの誰かの話ではなく一人一人にあるもの
- 自分のマイノリティ性を押さえ込まずに、マジョリティ性とも向き合うことが大事

などなどご紹介しきれないたくさんのお話をしていただきました。

同推協だより

No.１４２号
２０２５年７月発行
神前地区同和教育推進協議会
Email:kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp

2025年度　神前同推協総会が開催されました　☆

５月９日（金）あいにくの雨天でしたが１２５名を超す出席者でした。昨年度の活動の総括と新年度の活動方針・予算等が承認されました。第２部で企画部の啓発劇を実施しました。また、総会後に人権フェスタ実行委員会を開催しました！！

新役員表(各部の副部長、書記は除く)

役職名	名 前（敬称略）
会　長	近藤　静夫
副会長	武藤　　清
副会長	中山　芳弘
本部書記	中川　里美
会　計	林﨑　恵美子
研修啓発部長	山口　美江
企画部長	坂倉　乾三
広報部長	矢賀　文浩

総会の様子（啓発劇の場面）

【　新役員の抱負　】

【同推協会長：近藤】

本年度は年間行事を運営するなかで、組織の活性化をめざし、特に後継リーダーの養成に取組みます。地域住民同士の繋がりの希薄化が進んでいます、このことは地域住民の安全・安心の生活維持の危機にも繋がります、防犯・防災面での住民同士の**共助の力**が低下するためです。人権について学び、**人と人の繋がりを大切にする人**を増やすことが、より求められています。同推協では本年度も多くの懇談の場を設けます、それは懇談の場が年齢や性別に関係なく本音で気軽に話しのできる仲間づくりの場にもなっているからです。

【研修啓発部長：山口】

研修啓発部の部員の皆さんに支えてもらいながら、１年間頑張っていきたいと思います。今年度の夏の研修（啓発委員研修会）のキーワードは「アンコンシャスバイアス～無意識の思い込み～」です。総会の啓発劇で取上げられました、身近すぎて気づかない自分の中のかくれた思い込みを一緒に探しませんか？夏の研修会で各団体、地域（各町）の皆さんとお会いできるのを部員一同楽しみにしています。

【広報部長：矢賀】

昨年度から同推協に参加させて頂き同和問題について勉強させて頂きました。今年度は広報部部長として、より多くの方に「同推協だより」をご幸読頂く事を目標に、部員の皆様と力を合わせて取り組んでいきたいと思います。よろしくお願い致します。

第 23 回『人権フェスタかんざき』を開催しました！！

６月８日（日）午後１時３０分～神前小学校の体育館にて**人権講演**と**落語**を楽しみました。（近隣地区を含め２００名の方の参加がありました）

講師は落語家の桂枝女太師匠（五代目桂文枝 10 人目の弟子：桂三枝（現在６代目文枝）の弟弟子で上方落語協会の理事）で、「笑いながら考えよう～言葉のちから～」と題して講演と落語で９０分話していただきました。テレビ放送の仕事で直面したのが放送禁止用語・昔は日常会話でも使われていたが最近では差別用語として使われなくなった言葉についての話でそれを決めているのが、業界の自主規制であることと時代とともに変化していくことの話もありました。

自分が万一差別用語を相手の前で発したことに気付いた時は、**直ぐに謝ること**が大切なこと、また**「〇〇〇のくせに」**という言葉**は使わないこと**、これには相手を蔑む(見下す)感情が含まれる差別用語で対人関係を壊すことになる。等の話がありました。落語の演目は「平林」字の読めない丁稚さんが旦那さんの手紙を預かり届ける噺。旦那さんから教えてもらった「ひらばやし」という名を忘れ、届けに行く途中に出逢う人に尋ねるが、手紙の宛名の字を違った読み方で教えられ、宛先が余計にわからなくなり困っていると最後に本人に出会ってようやく正しい宛名がわかるという笑いが出る話でした。

桂枝女太師匠による人権講話の様子

桂枝女太師匠による落語の様子

～～～　『人権フェスタかんざき』の　アンケートより　～～～

・言葉の力確かに私もよく悪気はないけど口が滑って余計な一言を言ってしまうことがあります。一度発した言葉は消せない、子どもにもよく「何言っても差別だとか叱られるなら何も話さない」そういう声を聞くこともあります。みんながそうして変に顔色をうかがって大切な話をしなくなる。そんな世の中になることは避けたいです。なので私はこれからもたくさんの方と交流していろんな意見を聞いていきたいです。

・男女平等、戦争、放送禁止用語、子「供」という字等などのお話についてどうなのかと思うところがあった。自分も今日の話を振り返って友人と話して整理していきたいと思った。

・言葉の使い方で他の人の気持ちを良くにも悪くにもしてしまう、よく注意して話したい。又相手を尊重している姿勢が大切と感じる。落語はとても楽しかったです。大笑いでした。

・講演の中なので仕方ないですが、やはりそれでも差別言葉はききたくなかったです。

・言葉の重みを考えさせられました。気楽にでもよく考えての発言が必要ですネ。

・結局、言われた相手が傷ついたり嫌な思いをするような言葉を使えばどんな言葉でも差別やいじめに繋がるのではないか？ コミュニケーションが大事で、お互いに尊重し、意見が言える事が、言葉から嫌な思いをする事も減るのかも知れない。今回の講座で久しぶりに差別用語の本当の意味を考える事に繋がりよかったです。

・落語、楽しい時間でした。講演内容は単語自体が問題でなく、その言葉をどう使うかが問題である。言葉を発する無意識に人を傷つけてしまう時もあるので日頃からアンテナを高くして意識をすることが大事だと思いました。

・自主規制という名の下に、自由や人権が奪われていることになっていないのか？ということを考え注意する必要があるとの警鐘と感じた。

アンケートにご協力いただきありがとうございました。
ご紹介しきれないほどのたくさんのご意見をいただいております。
いただいたご意見は今後の同推協の活動にも反映させていただきます。

～同推協では啓発委員（仲間として活動して頂く方）を募集しています！～

【問合せ先】神前地区市民センター内　団体事務局　℡・fax 327-1501（受付午後）
Email：kanzaki-do@m2.cty-net.ne.jp